

2012年11月23～25日 第2回「ふくいち周辺環境放射線量モニタリングプロジェクト」参加報告

報告者 N/J

☆参加された方々

「安心・安全プロジェクト」 http://www.geocities.jp/ansinzen_project/

「南相馬・市民放射能測定所」 <http://memoli4future.com/kodomira/citizen/entry-6928.html>

「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」 <http://kodomofukushima.net/>

「長野県（松本市・大町市）チーム」「山形県チーム」「関東圏チーム」など 総勢 32～35名程度

☆測定対象地域：福島県南相馬市原町区片倉地区

5班編成（各班5～6名）で日立アロカ TCS172B とギョロガイガーを使用して、担当地区を基本的に40m×50mのメッシュで測定。



・日立アロカは1台が50万円するという機器で、「通販生活」からの借用品、各班1台、政府機関や自治体が最も信頼出来る機器として、採用している測定器らしい。シンチレーション式。他に表面汚染測定のための日立アロカ TGS146B も数台、こちらはGM管式。

測定者+タイムキーパー+記録者の3人1組で測定。あらかじめ指定されたポイント（75m×100mで1箇所）で、空間線量率（1m高）を一定時間ごとに3回測定、汚染の強い地点では表面汚染も測定していたようだ。

・ギョロガイガー



ギョロマンという会社が開発・販売しているGM管式の測定器、スマートフォン（アンドロイド）とBluetoothで繋ぎGPS位置情報と時刻・測定値を記録する。担当者はスマホとギョロガイガー（1m高）を持ち、歩き回る。各班1～2台、私はこれを担当。

・その他：参加メンバー個人所有の測定器10数台。メーカーや機種が確認出来たものは、堀場製作所のRadi PA-1100、インスペクター（米国・型番不明）、RADEX（ロシア・型番不明）、ポリマスター 1710A（ベラルーシ：高！楽天で見たら26万超）、ガンマ・スカウト（ドイツ・型番不明）、エステー・エアカウンターS、など。

今回は第2回目のモニタリングとのことだが、私はレンタカーの運転手役で初参加、ギョロ担当で色々貴重な体験をさせてもらった。

☆11月23日

二晩の宿泊を受け入れて下さったお寺に到着後、地元チームの案内で南相馬市原町区片倉地区の高汚染地域（横川ダム周辺）に入る。

横川ダムの先、鉄山ダムのモニタリングポストの値は $4.170 \mu\text{Sv/h}$ であった（正確には $4.170 \mu\text{Gy/h}$ だが、 $\mu\text{Sv/h}$ に読み替えてかまわないようだ）。



出来るだけモニタリングポストに近い場所（左手前、柵の道路側）に様々な計測器を置き測定すると、おおむね $4.7 \sim 5.8 \mu\text{Sv/h}$ あたりを示した。地元の方のお話しでは、道路のアスファルトは高压洗浄機で洗った後が見られるという。

その後、鉄山ダム南西林道の超超ホットスポットに案内された。 $300 \mu\text{Sv/h}$ 振り切れとのことで近づかないよう注意を受ける。それでも「怖いもの見たさ」の方々（自前の測定器を持っている方が多い）が測定に向かい、 $100 \sim 270 \mu\text{Sv/h}$ を記録。林道のガードレールの切れた場所（雨どい効果のある場所と思われる）であり、数字のバラツキは測定場所（近付き方の違い）によるものと考えられる。

5 班に分かれて林道枝道に入り測定、私のギョロは最高 $10 \mu\text{Sv/h}$ を計測したが、写真は撮り損なった。



上の画像は、デジカメの GPS 情報をグーグルマップに落としたもの。赤いピンの立っているのが撮影（計測）ポイント、市町村境は赤をのせてある。スマホ画像の左上角から下中央やや左にかけて南相馬市と浪江町の境がある。

☆11月24日

第 1 班のギョロ担当で横川ダム東側周辺を測定。午前はダム沿いの林道を中心に歩き回った。林道上は $1.5 \sim 2.8 \mu\text{Sv/h}$ 、林道を外れて斜面を登ると途端に数値が上昇、 $4.98 \mu\text{Sv/h}$ を記録。ギョロガイガーは「徒歩モード」の際には、30 秒に一回計測値をスマホに転送するが、歩きながらデジカメを取り出しタイミング良く数値を画像として残すには慣れが必要と思われる。デジカメを常に ON にしておけば良

いのだが、バッテリーの関係で難しい。デジカメで記録を残せなくてもスマホの「ギョロマン・ホルダー」には、GPS 情報と共に計測値が保存されているので、問題無し。常時、スマホ画面を見る必要も無い。



← 「てんぐいわばし」という橋の付近

午後は荒れた草原を中心に測定、下に拡大図。荒れた草原は元「はらまちフラワーランド」という場所で、昨年311 以前からすでに閉鎖状態だったように思われる。



「南相馬フライングクラブ片倉飛行場」には、200m 程の滑走路が設けてある。この日も（土曜日だ）2 人のラジコン飛行機愛好家がフライングを楽しんでいた。荒れた草原や飛行場の空間線量はおおむね、1.5～2.5 μ Sv/h 程度。



第 1 班・班長さんの指示で上の方に見える林道らしき地点を目差し、急傾斜の杉林を登った。林の中は両手を自由にするため、スマホもギョロガイガーもバックに収納していたので数値は不明（記録は残っているはず）。写真の下半分には碎石をひいてあるが、その先は碎石は無く人がやっと通れる程度の捨てられた（？）建設途中の林道。

同日 18 時 30 分から押釜地区の集会場で「第 1 回モニタリング（10 月 6～8 日）報告会」が開かれた。モニタリングプロジェクト参加者 30 数名と押釜地区の区長さんをはじめ住民の方約 20 名が集まり、押釜地区の測定結果まとめをお聞きした。報告者は「安心・安全プロジェクト」の 0 さん、0 さんは南相馬市原町区馬場地区にお住まいだ。

押釜地区は現在竹中工務店による（実際には下請け）除染作業が進行中だが、10 月の押釜地区モニタリングは除染前。区長さんからは除染終了後も是非測定をお願いしたいし、次回は住民の協力をお願いして各班に地理案内人を付けたい、測定結果のデータは押釜地区の宝物だとの発言を頂いた。

（具体的な数値は今のところ、押釜地区区長と住民の方々、「安心・安全プロジェクト」および「ふくいち周辺環境放射線量モニタリングプロジェクト」内で共有することになっていて外部に出すことは出来ない）

住民の方からは、国の除染はいい加減、家屋から 20m の林は除染することになっているが 20m に達しないのに終わりにする、線量はあまり下がらないし、市役所に苦情を言ってもラチがあかない、等の発言。

「一人一人が声を上げていくしかありません、共にがんばりましょう」というのが 0 さんの回答だった。

☆11月25日



第3班の応援で福島国体の時（1995年）に作られた馬事公苑周辺のモニタリングに参加。同じくギョロ担当で歩き回った。旧20km警戒区域に隣接しており、一時帰宅の際の着替えや車のサーベイがおこなわれた場所だそう。車が基準オーバー（13000cpm）だと「馬場を3周ほど走ってこい」と言われた。走ると付着した放射性物質が落ちる。だから馬場は汚れていたはず、と地元のNさんのお話し。線量は1.5～2.8 μ Sv/hだった。初日に10 μ Sv/h超を見ているせいか、驚かない自分の感覚が恐ろしい。

馬事公苑のすぐ上に「仮置き場」が工事中だった。隙間からのぞくと黒いフレキシブルコンテナ（通称フレコン）がすでに面積にして1/4ほどの広さに積み重ねられていた（高さは2・3段）。

ICRPの基準では一般人の被曝限度は年間1mSv、日本での放射線管理区域の定義は3ヶ月で1.3mSv（年間で5.2mSv）、それを空間線量率に換算するとそれぞれ、0.23 μ Sv/h、0.6 μ Sv/hだそう。南相馬市に住んでおられる多くの方々は、それをはるかに超える環境の中で生活をしているわけだ。除染が済んだお宅の庭先を（許可を頂いた）通らせてもらったが、家屋の周辺は1 μ Sv/h前後、家屋から40～50m離れた屋敷林では2.5 μ Sv/hだった。お住まいの方も数値を気にしておられた。

そのことに対する環境省の説明は以下の通り。

<http://radi-info.com/q-1488/>

一言で言うと、ICRP基準や放射線管理区域の規定は計画的被曝（コントロール出来る被曝）の場合で、事故の場合はそれらは適用されない、のだと。（以上、とりあえずの報告 11.26記）